

時代	佐賀藩の動き	全国の動き	
江戸時代後期	文化元 1804	ロシア レザノフ長崎来航、通商要求	
	文化3 1806	古賀穀堂 弘道館教授に任命される 古賀穀堂 鍋島斉直に「学政管見」を提出	
	文化5 1808	間宮林蔵 樺太調査 フェートン号事件 ←→ フェートン号事件	
	文化11 1814	鍋島直正 誕生	
	文政2 1819	古賀穀堂 直正の御側頭となる	
	文政3 1820	直正 学齢に達し古賀穀堂が侍講になる	
	文政8 1825	直正 将軍家斉の娘(盛姫)と結婚	異国船打払令
	文政11 1828	子年の大風(シーボルト台風)で大きな被害	シーボルト事件
	天保元 1830	直正 数え年17歳で第10代佐賀藩主に就任 粗衣粗食令 直正 長崎でオランダ商船に乗り込み見学 古賀穀堂を御年寄相談役に任用	
	天保2 1831	古賀穀堂『済急封事』を提出	
	天保3 1832	向こう5年間の城中諸役の儉約令を公布	
	天保4 1833		天保の大飢饉(〜39)
	天保5 1834	古賀穀堂 御年寄となる 医学館設立(八幡小路)	
	天保6 1835	佐賀城二の丸焼失、本丸御殿再建を表明	
	天保7 1836	古賀穀堂 死去(享年60歳)	
	天保8 1837	岩田砲術練習場で大砲の実射試験	大塩の乱 モリソン号事件
天保9 1838	佐賀城本丸御殿再建 本丸内に藩政組織を置き藩政改革を本格化		
天保10 1839	第9代藩主斉直 死去(享年60歳)	蛮社の獄	
天保11 1840	藩校弘道館移転・拡張 岩田砲術練習場で高島流砲術演習を実施	清国でアヘン戦争が起きる(〜42)	
天保12 1841		天保の改革	
天保13 1842		天保の薪水給与令	
弘化元 1844	火術方を設け、砲術研究を開始 直正 オランダ軍艦 バレンバン号を視察 ←→ オランダ国王開国勅告(バレンバン号来航)		
弘化3 1846	直正 嫡子淳一郎(後の第11代藩主鍋島直大)誕生	アメリカ ビッドル浦賀に来航、通商要求	
弘化4 1847	直正の正室盛姫 死去(享年37歳)		
嘉永元 1848	佐野常民 大阪の緒方洪庵の道塾に入門		
嘉永2 1849	佐野常民 江戸の伊東玄朴の象先堂に入門 直正 嫡子淳一郎に種痘を施す 直正 田安家の筆姫と再婚		
嘉永3 1850	本島藤太夫を伊豆葦山へ派遣 長崎の伊王島、神ノ島両島築堡の起工決定 「文武課業法」制定 築地の大銃鑄立方(築地反射炉)で鉄製大砲製造に着手 吉田松陰 弘道館で枝吉神陽に会う 枝吉神陽らによる義祭同盟の結成		
嘉永4 1851	医学寮と蘭学寮を併設 医業免札制度開始 佐野常民 中村奇輔ら技術者4人を伴い佐賀に戻る	島津斉彬薩摩藩主となり、集成館事業開始	
嘉永5 1852	鉄製大砲の鑄造に成功 精煉方設置		
嘉永6 1853	伊王島、神ノ島両島築堡砲完備 幕府から鉄製大砲製作の依頼、50門の注文 ←→ アメリカ ベリーが浦賀に来航 公儀石火矢鑄立所(多布施反射炉)設置 直正 長崎奉行へ蒸気軍艦購入を申請、許可される ロシア ブチャーチンが長崎に来航 大船建造の禁の廃止		
安政元 1854	直正 オランダ船スピン号(観光丸)を見学 蒸気船製造の意思決定	ベリー 再来航、日米和親条約締結	
安政2 1855	長崎海軍伝習所に大量派遣 ←→ 長崎海軍伝習所設置 精煉方で蒸気車雛形と蒸気船雛形が完成 薩摩藩 日本初の蒸気船 「雲行丸」の試運転に成功		
安政3 1856	弘道館内生業生徒に火術方訓練開始 江藤新平「凶海策」で開国論を唱える 島義勇 直正から蝦夷地調査の命を受け佐賀を出発	アメリカ総領事ハリス 下田に着任 吉田松陰 松下村塾で教授開始 長州藩 反射炉の雛形完成	
安政4 1857	島義勇蝦夷地・樺太の調査に参加 オランダから洋式帆船「飛雲丸」購入	佐賀藩 伊豆葦山の反射炉建設に協力、完成 薩摩藩 反射炉築造に成功(2号反射炉)	
安政5 1858	三重津に御船手稽古所(のちの三重津海軍所)設置 直正 観光丸にて薩摩を訪問し、島津斉彬と会談 長崎で帆船「晨風丸」建造 オランダから初の蒸気船「電流丸」購入 医学寮を移し好生館と改称	日米修好通商条約 安政の大獄(〜59)	
安政6 1859	幕府から蒸気船「観光丸」を預かる		
安政7 1860		桜田門外の変(大老井伊直弼 暗殺される)	
文久元 1861	蘭学寮が弘道館内に移る 直正 隠居し(号「閑叟」、鍋島直大が第11代藩主となる)	ロシア軍艦ボサドニック号対馬占領事件	
文久2 1862	軍制改革を実施 江藤新平 脱落 技吉神陽 死去(享年41歳) 直正 初めて参内	坂下門外の変 文久の改革、島津久光幕政改革を求める 和宮降嫁 生麦事件	
文久3 1863	直正 将軍家茂に謁見し 文武修業と時勢に関する助言を求められる 直正夫人筆姫 江戸を発し、佐賀に到着 三重津で幕府注文の蒸気機関を完成	長州藩下関外国船砲撃 薩英戦争 八月十八日の政変(七卿落ち) 高杉晋作 奇兵隊結成	
元治元 1864	イギリスから蒸気船「甲子丸」購入 直正 参内	禁門の変 第一次長州征討 四国艦隊下関砲撃	
慶応元 1865	三重津造船所にて日本初の実用蒸気船「凌風丸」完成 長崎に「蕃学稽古所」(のちの「致遠館」)を設立		
慶応2 1866	将軍家茂 親書をもって直正に上坂を要請 イギリスから蒸気船「阜月丸」購入 一橋慶喜 親書をもって直正に上京を要請 直正 伊万里にてボードインの診察を受ける	薩長同盟 (坂本龍馬、中岡慎太郎同盟成立に奔走) 第二次長州征討 孝明天皇 崩御	
慶応3 1867	第2回パリ万博に参加(佐野常民、野中元右衛門、 深川長右衛門、小出千之助、藤山文一を派遣) 佐野常民 オランダで軍艦発注 ←→ バリ万博 山内容堂 大政奉還の建白書を 将軍慶喜に提出 坂本龍馬、中岡慎太郎 暗殺される		
慶応3 1867	副島種臣、大隈重信 脱藩上京 直正 大阪で慶喜と会談し、長州処分の意見を述べる	ええじゃないか騒ぎ 大政奉還 王政復古の大号令、小御所会議、 江戸幕府滅亡	
明治	佐賀藩兵 東征軍北陸道先鋒として従軍	鳥羽・伏見の戦い(戊辰戦争)	
	江藤新平、大木喬任連署で 東京奠都等に関する建言書提出	五箇条の誓文 江戸城無血開城	
	上野戦争に参戦 アームストロング砲の使用 武雄隊 羽州戦争に参戦 ←→ 奥羽越列藩同盟結成 上野戦争	江戸を東京と改称 明治天皇即位の礼 明治と改元 会津藩降伏、庄内藩降伏	
	長崎警備の役目を免ぜられる 大木喬任 東京府知事に就任 直正 上京し太政官に出任		
	直大 薩長土の藩主とともに版籍奉還を上奏 直正 副島、江藤等を従え藩政改革のため 京都を発し帰佐の途に就く ←→ 薩長土肥の藩主版籍奉還を上奏		
	直正 開拓使長官、島義勇 開拓判官に任命される ←→ 東京行幸 箱館五稜郭の戦い(戊辰戦争終結) 版籍奉還 開拓使設置		
	直正 大納言に就任 直正 病氣療養のため溜池邸から永田町の邸に移る		
	明治3 1870	工部省設置	
	明治4 1871	鍋島直正 死去(東京永田町の新邸にて 享年58歳) 副島種臣 外務卿 島義勇 秋田県権令 大木喬任 民部卿、文部卿(初代)	廃藩置県 岩倉使節団米欧へ出発 郵便開業
	明治5 1872	江藤新平 司法卿(初代) 副島種臣 外務卿としてマリア・ルス号事件にあたる 伊万里県を佐賀県と改称	学制公布 新橋・横浜間鉄道開通
	明治6 1873	佐野常民 ウィーン万博副総裁 ←→ ウィーン万博 大隈重信 大蔵卿 明治六年政変で西郷隆盛、板垣退助らとともに ←→ 明治六年政変 江藤新平、副島種臣下野	
	明治7 1874	板垣退助、後藤象二郎らとともに副島種臣、江藤新平 ←→ 自由民権運動 「民撰議院設立建白書」を提出 佐賀戦争にて江藤新平(享年41歳)、 ←→ 佐賀戦争(佐賀の乱) 島義勇(享年53歳)ら処刑	
	明治8 1875		元老院、大審院設置
	明治9 1876	佐賀県を廃し、三浦県に合併 その後順次長崎県に編入	神風連の乱、秋月の乱
	明治10 1877	西南戦争に際し、佐野常民ら「博愛社」 ←→ 西南戦争 (のちの「日本赤十字社」)を設立 木戸孝允 死去(享年45歳) 西郷隆盛 死去(享年51歳)	
	明治11 1878		大久保利通 暗殺される(享年49歳)
明治13 1880	大木喬任 元老院議長(初代) 佐野常民 大蔵卿		
明治14 1881	大隈重信 明治14年の政変で下野 ←→ 明治十四年の政変、国会開設の勅諭、 板垣退助自由党結成		
明治15 1882	大隈重信 立憲改進黨結成 ←→ 大隈重信 立憲改進黨結成 大隈重信「東京専門学校」(のちの「早稲田大学」)開校		
明治16 1883	佐賀県が長崎県から分離独立	岩倉具視 死去(享年59歳)	